



金沢市【石川県】

歴史遺産保存活用マスタープラン

- 策定年月：平成21年3月 ■ 人口：464,427人 ■ 面積：469km²
- 担当課：金沢市文化スポーツ局文化財保護課（平成30年3月現在）



金沢市歴史遺産保存マスタープラン（歴史文化基本構想）は、金沢市の個性を示す都市のなりたちと歴史遺産の現状を把握し、それらの歴史の変遷と独自性・関連性に基づき価値を明らかにし、その保存・活用のための方針と方策を示すことを目的として策定した。

5 歴史文化を表す つのキーワード

城下町の都市構造、用水群と庭園群、
伝統文化、伝統工芸、伝統芸能

課題

- ・ 歴史遺産の物語の設定
- ・ 歴史遺産の多角的理解
- ・ 地域に根ざした歴史遺産の保存活用に関する研究

保存活用方針

- ・ 多様な歴史遺産の保存活用を通して「金沢らしさ」を際立たせる
- ・ 各活動主体の情報を共有し、協働で保存・活用に取り組む

保存活用のための取り組み

文化財保護と保存管理の推進

文化財の指定・選定・登録を進めるとともにその保存管理を適切に行う。また、多種多様な歴史遺産の価値に対応するため、各歴史遺産の本質的価値を確実に守り、活用していくための保存活用計画を順次策定する。



保存整備・活用事業の実施

歴史遺産に身近に接する機会を増やすことにより、市民の歴史遺産に対する関心を高めていく。また、歴史遺産の本質的価値や魅力を的確に分かりやすく伝えるために、案内解説、体験活動（ソフト）と施設整備（ハード）の総合的な充実を図る。



文化財保護に携わる人材の育成

歴史遺産に関する学習機会を提供し、地域学習を進めることにより、金沢に根ざした郷土を愛する人づくりを行う。また、歴史遺産の保存活用に関わる専門的人材の育成を図るとともに、その活動を支援する。



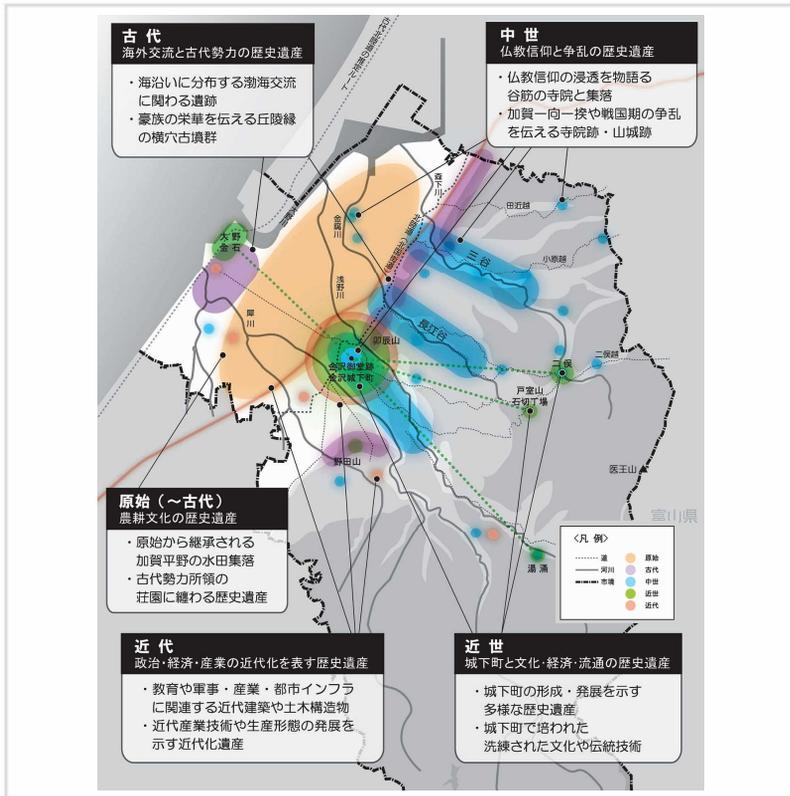
文化財保存活用関連情報の積極的な発信

インターネットや書籍等を活用し、歴史遺産に対する適切な情報を発信する。また、歴史遺産に関連するまちづくり活動や観光情報を提供することにより、歴史学習や地域活動の円滑化を図るとともに歴史都市金沢を国内外に広く発信する。





関連文化財群



個々の歴史遺産が持つ規模の大小や有形・無形といった性質や時代別特性、地域別特性などを踏まえ、金沢独特の文化や歴史に基づいたテーマやストーリーに基づく関連文化財群を設定した。旧金沢城下町を主たる対象として設定した関連文化財群のテーマは7項目とし、金沢市域全体を対象として設定した関連文化財群は6項目とした。その主なものは以下のとおりである。

ストーリー

- ① 旧金沢城下町の用水と関わる庭園群
- ② 旧商人町の歴史的界隈と遺産群
- ③ 金沢の茶の湯文化に関わる遺産群
- ④ 金沢の能楽文化に関わる遺産群
- ⑤ 金沢町家の変遷を示す建築物群
- ⑥ 金沢の近代化を示す歴史遺産
- ⑦ 古代祭祀・信仰に関わる遺産群
- ⑧ 加賀一向一揆に関わる遺産群
- ⑨ 戸室石の採石と利用に関する遺産群
- ⑩ 湊町の交易・物流に関わる遺産群



策定後の成果（見込まれる効果）

① 新たな文化財の掘り起こし

建造物、町並みなどを中心に調査が進み、辰巳用水附土清水塩硝蔵跡、末浄水場園地などの国記念物の指定、それらの保存活用計画が策定されたほか、縁付金箔製造が選定保存技術に選定されるなど文化財保護の取組が積極的になされている。



② 文化財の面的保護の実践

「金沢の文化的景観 城下町の伝統と文化」の重要な文化的景観選定のほか、卯辰山麓、寺町台重要伝統的建造物群保存地区の選定、「加越国境城跡群及び道」の国史跡指定など、ストーリーを持った文化財群の面的指定が促進されている。



③ 市民と協働した周知・啓発活動

NPO法人などの民間団体や地域住民と連携することにより、歴史遺産活用の可能性が大きく広がることが期待される。市内にある文化財の一斉公開を行う「金沢歴史遺産探訪月間」を毎年開催し好評を得ているほか、文化財ボランティア「うめばちの会」主催の探訪会や史跡清掃など、市民と協働した文化財保護の体制づくりを進めている。

